

旅と文化

発行所
財団法人全国修学旅行研究協会
東京都千代田区
神田神保町2-30
電話(33)0168
編集人 永井 照
発行人 永井 照

第二回理事会開かる

新段階を確認し事業推進を誓う

昨秋の財団法人設立後、約四月ぶりである第一回理事会が三月十四日、十時から、山本理事長、永井、村山、岡本各常務理事、馬場、河野、仲沢、伊藤各理事出席のもと、東京修協本部で盛大に開催された。今回は新年度準備の一新予算、事業の検討と、三月二十一日、山陰、中国、四国を皮切りに行われる各ブロック会議の検討が主な仕事であった。

会議は藤村総務部長司会のもとに開かれ、山本理事長の全修協組織活動の全国的実情、特に全国支部設立における同志の温かい友情による団結、財団法人に基く画期的な意義等についての力強い挨拶があり、続いて永井事務局長の経過報告があつて別項のような協議について熱心な討議が続けられ、夜の七時半過ぎまでかかるといふ大規模なものであつた。

協議事項

第一号議案、全修協協会の徹底と活動方針に関する件について
第二号議案、三十三年度予算案、三十三年度事業計画案、三十三年度修学旅行実施案に関する件について
第三号議案、支部運営に関する件について
第四号議案、三十三年度修学旅行実施案に関する件について
第五号議案、修学旅行の組織化に関する件について
第六号議案、その他の件について

第一号議案、全修協協会の徹底と活動方針に関する件について
第二号議案、三十三年度予算案、三十三年度事業計画案、三十三年度修学旅行実施案に関する件について
第三号議案、支部運営に関する件について
第四号議案、三十三年度修学旅行実施案に関する件について
第五号議案、修学旅行の組織化に関する件について
第六号議案、その他の件について

と参加者募集についての対策を協議した。
第五号議案、修学旅行の組織化に関する件については、修協の安全と快適のためにその組織化を緊急に推進する必要があること、そのための対策が協議された。
第六号議案、その他の件について月報の発行が要望され、今後各支部が月ごとの支部活動状況を本部に報告すること、本部は下記の通りである。

新任支部長協議会

新しい同志的結合を固めた

青森県盛岡市三喜雄氏(前教組委員長) 岩手県砂子由次郎氏(元県教育委員) 富山県木田喜作氏(元県教育委員) 東京都青山良道氏(現都議会議員) 愛知県宮本秀吉氏(前校長) 滋賀県垣見基一氏(現教育長) 山口県宮本吉正氏(現県教育委員)

最長佐伯盛吉氏(元県教委) 協議は十時から本部において開かれ、(一)組織に関する件(二)支部長職務に関する件(三)支部運営に関する件(四)当面の事業活動に関する件(五)その他について協議したが、いづれの案件も新任者としての緊急必要事項のみで、各支部長の力強い共鳴を得、今後各県において大活動を開始することを誓ひ合つて解散した。

中国 ブロック会議

全国にさきかて山陰、中国、四国ブロック会議が、去る三月二十一日、高松市銀星旅館で開催された。

この日、瀬戸内海の朝もやをついて駆けつけた各支部長は、雲山のふもと銀星旅館の会場に定刻までにぞくぞく集合した。この会議には支部長(若しくは副支部長)と事務担当者の出席を願つておたが種々の事情で事務担当者の出席があつたのは岡山県、山口県のみであつた。本部からは山本理事長、永井事務局長が出席、会議は十時半から別項のような議題で開始され熱心な討議の後、全議案とも異議なく承認、十七時終了した。

(一)組織運営に関する件
(二)支部運営とその活動に関する件
(三)三十三年度修学旅行実施案に関する件
(四)修学旅行の組織化に関する件
(五)その他に関する件

特に議論が集中されたのは、修学旅行の件であつた。昨今の今ごろと比較し参加状況の悪い理由として、旅行日数の増加、負担の増大が影響しているという見方も相当強かつたが、一面、昨年の実施は老朽となり、あつた時期的に適切な手を打つことを準備中であること、教組の組織以外、校長および教頭は十分了解作業をして応援を得ることが強調された。

支部組織の完成に際して

修学旅行にまつわる封建制をたちきり

「旅と文化」第一号の本欄において、修学旅行の盲点として、①教育上の正しい位置づけがされていないこと、②輸送、宿泊機関等の教育的協力の不足、③貧困児童生徒の不参加等をあげ、これが解決には、学校は勿論、修学旅行に関係する諸機関、一般世論の総力が鍵となるが、財団法人全修協が全国組織を完成して、最も切実な現場の問題から積み上げ、問題解決の原動力となり、目的貫徹に邁進する決意である。」と主張していることを、四十六都道府県に同志を結集して、強力な支部組織が完成された今日、再び思い起し、行動の指針として、胸に刻むべきである。

支部の構成は、幼稚園より大学までの校種をもち、会員はすべて教育関係者で、教員組合、その他の教育団体、教育行政関係者、教員個人、望のある学識経験者、なかんずく婦人会員の参加をえているのであつて、日本の全修協が支部組織をあげて、取りくむべきテーマであり、ここで問題を究明することが、修学旅行の盲点を解消できることである。

一、修学旅行の教育学的説明
二、旅行輸送業者の近代的経営への推進

一、修学旅行の教育学的説明
二、旅行輸送業者の近代的経営への推進

一、修学旅行の教育学的説明
二、旅行輸送業者の近代的経営への推進

一、修学旅行の教育学的説明
二、旅行輸送業者の近代的経営への推進

一、修学旅行の教育学的説明
二、旅行輸送業者の近代的経営への推進

一、修学旅行の教育学的説明
二、旅行輸送業者の近代的経営への推進

一、修学旅行の教育学的説明
二、旅行輸送業者の近代的経営への推進

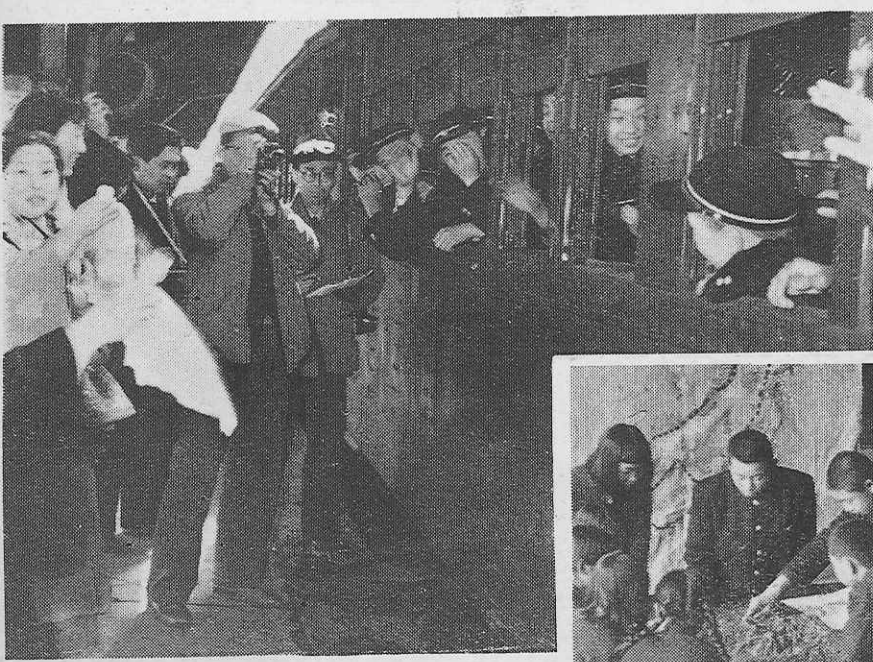


本部における第二回理事会

全修協第一回作品

修学旅行映画16

クランクアップ近し



◇撮影中のスナップ◇

(左) 父兄の見送りを受けて元気に奈良駅を出発
(右) 箱根火山の模型による修旅の事前教育



映画による修学旅行の事前教育が、三月二十四日(日)は今日既に常識となつてゐる。よき草中修学旅行が東京方面へ全修協本部は奈良市若草中学校 出発、ロケ隊(カメラ、照明、二、三年生三百五十名の東京コース 諸教諭は、修協団の進行に三月六日よりクランクを開始したが、湘南、江の島、の修学旅行団をモデルとして去つた。かくて一部の取り残しを除く。修協の事前教育や非常退避訓練などは、中村校長や松浦豊田、木枝教諭等の熱心な指導のもとに撮影を行い、奈良駅出発のシーンでは出発期日前にも予定であるが、この映画の上映がかわらず、わざわざ国鉄当局を希望される学校は各県支部が特別に列車を動かして協力し通じて開かされた。

★ とき 3月28日 ところ 九段会館 ★

第二に安全に遂行され、第三に

阿蘇中岳の噴煙